

秀友新聞

責任者 長橋 貴大
発行日 平成29年5月30日
第3号

新任医師の紹介

四月から札幌秀友会病院に着任した脳神経外科の藤原雄介と申します。簡単に自己紹介をさせていただきます。

札幌市に生まれ、市立伏見小学校を卒業後、私立北嶺中・高等学校に入りました。北嶺中・高等学校は文武両道を目指している学校ですが、私は主に武の方に力を入れていました。校技である柔道は高校一年生の時に黒帯を取得し、ラグビーはラグビー部に交って大会に参加し、高校一年次の全道大会で優勝した時のメンバーでした。それとは別にサッカー部に所属し、将来はJリーガーになりたいと夢見ていました。高校卒業後はJリーガーを目指して、当時大学サッカー



脳神経外科 藤原 雄介 医師

就職先を考えていた時の事ですが、私は中学生の時から腰痛や骨折などの怪我に悩まされる事が多かったため、スポーツドクターという形で選手をサポートする側に回ろうと思ひ、再受験の後に筑波大学医学部に

入学しました。入学当初は整形外科医を目指していた私ですが、学生時代の臨床実習や初期研修時代に脳神経外科に魅了され、筑波大学附属病院脳神経外科医局に入局する事となりました。脳神経外科医になつてからはドクターヘリの基地病院や年間何千台もの救急車を受け入れているいわゆる三次救急病院で昼夜を問わず、急性期脳脊髄疾患の治療に携わってきました。

急性期病院の役割はその名の通り、急性期の患者さんの治療を行う事です。そのため、急性期治療が終了した後は直接自宅に帰れる患者さんは自宅退院となり、その後の治療はかかりつけ医を持ってもらい、依頼する事になります。また、自宅に帰れない患者さんは回復期リハビリテーションを経て、自宅退院を目指すというために転院となります。そんな生活を数年間送っていた事や医局内人事の都合上、数年一回の転勤があったため、お互いが信頼関係をもつてずっと付き合っている患者さんが私にはほとんどいませんでした。

急性期病院の役割はその名の通り、急性期の患者さんの治療を行う事です。そのため、急性期治療が終了した後は直接自宅に帰れる患者さんは自宅退院となり、その後の治療はかかりつけ医を持ってもらい、依頼する事になります。また、自宅に帰れない患者さんは回復期リハビリテーションを経て、自宅退院を目指すというために転院となります。そんな生活を数年間送っていた事や医局内人事の都合上、数年一回の転勤があったため、お互いが信頼関係をもつてずっと付き合っている患者さんが私にはほとんどいませんでした。

当院の方針は「急性期医療から在宅療養まで」です。急性期治療から回復期リハビリテーション、在宅での療養までを一つのグループで行える病院は全国でも珍しく、素晴らしい事だと思

談いただければ幸いです。Q、秀友ふじいろ教室での活動以外に、昨年度から地域の介護予防活動にも関わっているとのことですが、具体的などのような活動を行っていますか。私も今後は少しでも多くの患者さんに信頼していただき、急性期医療から社会復帰・家庭復帰まで一貫した医療に貢献できればと思っています。

A、現在、手稲区内では十数か所で自主体操グループが活動しているとのことですが、このような介護予防につながる住民主体の取り組みを効果的なものにするため、リハビリテーション専門職(以下、リハ職)の関わりが期待されています。一つの例として、地域包括支援センターと連携しながら、介護予防に資する住民主体の通いの場にリハ職が出向き、参加者の能力を適切に評価し改善の可能性を助言することが挙げられています。

そこで、昨年度リハ科では、どのような助言ができたかを検討する目的で、手稲区にある四か所の自主体操グループを訪問し、運動や認知機能等の身体機能の検査を実施しました。写真はその様子の一部ですが、北海道科学大学保健医療学部理学療法学科の教員や学生にもボランティアで協力してもらい、延べ十二回実施することができました。

参加をしていただいた住民の方は、「自分の身体状況がわかってよかった」、「体操を続けるモチベーションに繋がる」等、この度の取り組みの感想を伺うことができました。ただ単に、運動や認知機能の検査結果を伝えるのではなく、普段行っている体操のやり方の助言が上記の発言に繋がったのではと考えています。今後は、入院患者さんのリハビリのみならず、地域の皆様に健康増進に寄与するような、様々な取り組みを考えていきたいと思ひます。

新採用者オリエンテーションの実施
当法人は四月三日(木)から五日(土)にかけて「平成二十九年年度新採用者オリエンテーション」を、札幌秀友会病院四階会議室にて実施し、新卒・既卒・中途採用を合わせ、二十二名の職員が参加しました。

阿部名誉院長 退職のお知らせ
永年にわたり、脳神経外科(脊髄)を担当しておりました、阿部 弘 名誉院長は平成二十九年六月末日を持って退職となりました。これに伴い、外来診療は六月二十二日(木)まで

糖尿病外来開始のご案内
平成二十九年四月五日(水)より、毎週水曜日の午前九時から十二時まで、糖尿病専門医による糖尿病外来を行っております。担当医はイムス札幌消化器中央総合病院の山浦 英樹医師です。糖尿病や血糖コントロールなど、何かお悩みや心配事がありましたら、お気軽にどうぞ。

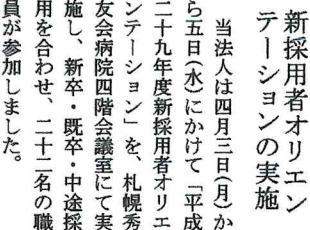
患者様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。尚、六月二十七日(火)以降の診療につきましては、決まり次第お知らせいたします。これまで多くの方々にご利用頂き、有難う御座いました。

最近のニュースとして、政府が新たな大型連休として二〇一八年四月から実施予定で「キッズウイーク」というものを考えているそうです。例えば本来は夏休みの八月のうち、最後の週の平日五日分の休みを短縮し、その休みを別の月に移動して、親などの大人も一緒に休暇を取れるよう、政府が企業などに強く求め、前後の土日と合わせて家族などでそろって最大九連休が取れるようにします。これにより、有給休暇の取得を促して「休み方改革」を進めるとともに、観光需要を分散して地域の活性化をはかる狙いがあるそうです。

しかし、いろいろと問題もあるようで、一般市民の反対意見も多く見受けられるようです。今後の動向が注目されるのではないかと思います。



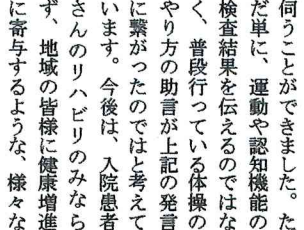
特設施設(会館学)



リハビリテーション科 長橋 貴大



地区センター



初日、始まったばかりの時は、緊張と不安の面持ちでしたが、次第に打ち解け合い、緊張が解けた様子です。今後の活躍を期待しております!